

# 【ファーストステップFX】

## Part1 一流トレーダーへの 道を進む為に

### 第6章

## 仮想トレードを行なう

株式会社チャートマスター

## ❖はじめに

### 【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリック出来ます。出来ない場合は最新の AdobeReader をダウンロードして下さい。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

### 【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものである為、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部を如何なる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

著作権等違反の行為を行なった時、その他不法行為に該当する行為を行なった時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行なう等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行なう場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行なう権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

このレポートを利用する事により生じた如何なる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

## 【ファーストステップFX】Part1第6章仮想トレードを行なう

### 目次

※目次の見出しをクリックすると、その見出しのページに移動します。

❖ 第6章：(1) ——デモ口座はレッスン場所——.....	4
❖ 第6章：(2) ——ルールを守る習慣を付ける理由——.....	7
❖ 第6章：(3) ——デモトレードと自信との関係——.....	9
❖ 第6章：(4) ——そのシステムに無理はないか？——.....	11
❖ 第6章：(5) ——トレード履歴を紙に記録しよう——.....	13
❖ 第6章：(6) ☆★☆第6章のまとめ☆★☆.....	15

## ❖第6章：（1）——デモ口座はレッスン場所——

この章では検証が終わり、「このシステムを運用しよう」と決まった後、実際に動いているチャートを使ったデモトレード（フォワードテストと言います。）を行なう時の注意点やその有効性についてお話しします。

さて。あるサラリーマンがいました。

彼は仕事の忙しさにかまけて、ほとんど運動をしていませんでした。そのせいか、いわゆるメタボ体型にまっしぐら…と言った状態でした。こんな状態ではとてもとてもモテはしません。

ですから、この状態を打破するべく、思考錯誤します。そしてある時、意を決して周りにこんな事を言いました。「半年後にフルマラソンに出て完走する！」…と。

フルマラソンと言えば、肉体的にも精神的にも相当ハードなイベントです。

ですので、少なくとも今の自分がフルマラソンに出たとして、とてもとても走り切れるとは思えません。運動をして来なかった為にメタボになって来た訳ですから、当然、無理に決まっています。

ではどうすれば良いのでしょうか？

フルマラソンは半年後。ですから、時間はまだあります。今の問題は、体力がなさ過ぎて走り切れない、という事です。という事は…「フルマラソンを走り切れるくらいの体力を付ける」これをする必要がある訳です。

そうしたら彼が今、出来る事は何でしょうか？

そうです…「走る練習をする」という事です。

誰しものが始めたばかりで、走れる人と同じ距離を走る事は出来ません。誰しものが始めたばかりで、プロと同じプレーをする事は出来ません。

どんなものでも必ず、練習をしなければいけないのです。

そのお陰で、彼はフルマラソンで完走が出来るように、毎日毎日、黙々と走る事になります。「フルマラソンで走り切れるように練習をする」という事ですね。

このように、徐々に目標とするレベルに近づいて行き、最終的に描いていた自分になれるように練習をして行くのです。

### それは投資も一緒です。

それがとても優秀なシステムだったとしても、実際に使ってみなければ、自分にどんな影響があるのかが分からないのです。ですから、初めからリアルマネーを使うようなリスクを負ってはいけません。

練習をするには、どれだけ目の前の数字が減っても自分に被害はないデモ口座でやる必要があると言う訳です。

デモ口座で利益を上げられないのであれば、リアル口座で利益を上げる事は出来ません。

練習で出来ない事が、本番では出来る訳がありませんから、デモ口座で慣れる必要があるのです。

その為、先ず初めに行なう事は FX 会社で提供されているデモ口座を作る所から始めましょう。つまり、お金が減っても誰も何も痛まない口座でトレードをしてみて、実際にこのシステムの感触を掴む練習を行なうのです。

その際に大切な事は、実際にリアルトレードをする時に使う予定の FX 会社のデモ口座を開設してみる事です。

デモ口座とリアル口座で別々の会社を利用するよりも、デモもリアルも同じ会社を利用する事で、リアルトレードに入った時に、すんなり入れるようにする必要があります。それともう一つ注意点があります。

## 【ファーストステップFX】Part1第6章仮想トレードを行なう

そもそもどの会社を利用してトレードをして行くかです。

FX 会社には多種多様な会社があり、ここが一番良い…というのは一概に言えません。それもいろんな証券会社のデモ口座を利用して、自分に合うところでリアル口座を開設すると良いです。

またリアルトレードではスリップといい、注文したレートより不利なところで注文が入ることもよくありますので、リアル口座を開設しても短期トレードをする場合などは、小額でまずは試されると良いです。

[▲目次へ戻る▲](#)

## ❖第6章：(2) ——ルールを守る習慣を付ける理由——

トレーダーがどうしても勝てない理由がここにあります。

この話は第1章でも話した内容ですが、今一度、簡単にその話をしますと、そもそも人間は習慣性を持った生き物です。その為、普段行なっている行動や言動は、これからもそれを続けてしまう可能性が非常に高いのです。

という事は、**今まで利益を上げていなかった人間は、これからも利益を上げる事はない・・・**と考えられます。

利益を上げる事の出来なかった理由は簡単です。**利益を上げるようなトレードをしていなかった、ただそれだけです。**それでは、利益を上げるようなトレードをして来なかったとはどういう事でしょうか？

仮にトレーディングシステムを検証した結果、続けて行けば利益が出ると分かっているシステムがあったとします。

しかし、そのままでは何の利益も生みません。

あくまでそのシステムを続けられるかが問題になって来ます。勝てるルールがあったとしても、そのルールを守らなかった。自分の裁量が入ってしまった。そうした時、その勝てるシステム、勝てるルールは全く価値がないものになってしまうのです。

しかし、本来はルールが守ればそれで良い筈なのです。ここで問題なのは、**ルールを守れなかった事**にあります。そうです、

**決められたルールを守るという習慣を持っていなかった・・・**という事です。

ではそもそも**勝っているトレーダーとはどんな人種の事**でしょうか？

それはこうです。

**「ルールを作り、それをしっかりと守っている人間の事」** という事が出来るかと思えます。

ルールが守れないのであれば、ルールを守れる習慣を作る必要があります。だからこそ、このデモ口座、デモトレードで、ルールを守る練習をする。

いきなりライブ口座でルールを守ると言っても、初めから出来てない人間がルールを守れる訳がありません。ここでも、ルールを守る「練習」をする必要があるという訳ですね。

投資の世界では「初心者」でも「上級者」でも、「知っている人」も「知らなかった人」も平等に扱われます。

**【初心者だから、今、持ってるマイナスのポジションはなし】**にはしてくれませんかし、**【大金持ちだからと言って、今より有利なレートで決済】**もしてくれませんか。

同じように一般道を車で 100km/h 以上で走行していたら、「スピード違反で捕まるなんて知らなかった」と言った所で、見逃してくれる訳がないのと一緒で、ルールを破った時に損が出た所で誰も何もしてくれません。

ただ、徐々に資金が減るだけです。いきなり、全部のルールを守れ！となると、なかなか難しい事もありますので、先ずは一つずつルールを守って行きましょう。

少しずつレベルアップしていけば良いんです。その為のデモトレードです。

[▲目次へ戻る▲](#)



## ❖第6章：(3) ——デモトレードと自信との関係——

人の自信とは、どこから来るものなのでしょうか？例えばこんな話があります。運転歴が何十年とある方が自動車に乗る時、今はもう無意識と言っていいくらい、自信を持って運転する事が出来ますよね？

そこで焦る事や、心配になる事は、普通に運転している限り、そうそうないかと思います。ですが、それはいつの間にそうなる事が出来たのでしょうか？

これは簡単な事で、恐る恐るでも車を運転していたからですね。

そしてそんな恐る恐るの運転から、徐々に車の操作方法を学び、体験した結果、少しずつ運転が出来るようになって来た筈です。そこから自分はある程度のレベルまで運転する事が出来る、別に心配なんてないよ…と、思えるようになって来るのです。

つまり、**これなら自分は出来るよ…という、自分に対する信頼が生まれて来る**訳です。これが、自信があると言える状態なのです。トレードでも、そんな自信が必要となって来ます。

そもそも、トレードの目的は一体何でしょうか？

そうです、「利益を上げる事」です。トレードで自信を上げる方法は、恐る恐るでも構わないので、そのトレード方法を繰り返すと、利益が出る・・・、という成功体験を繰り返す事です。

逆に言えば、自信がないからデモトレードをするのです。でも、面倒臭いからデモトレードはやらない…という話をよく耳にします。

しかし、そもそもデモトレードの位置付けは、そういった自分に自信を付ける為の練習場なのです。ですから、やらない訳には行かないのです。

## 【ファーストステップFX】Part1第6章仮想トレードを行なう

デモトレードなしでトレードすると・・・、トレードをしても、利益が出ないんじゃないかと不安になる・・・、連敗をして来ると、何となく焦ってしまう・・・、自分がトレードをする＝損をする、という錯覚に陥る・・・。

こんな風に、傍目から見たら意味のない、精神的に揺さぶられた状態の自分になってしまいます。最後には、トレードが出来なくなってしまう事もあるでしょう。

また、不安になっている場合はシステム以外の事をしてしまいがちです。

せっかく利益が出ているのに「反転しそうだから」と決済をしてしまい、もっと利益が出る所を見逃してしまうという事もあります。これらは全て、自分の自信がない状態から来ている行動なのです。

そのトレードに自信がなければ、再度検証をし直す。どっちにしろデモ口座なのだから、テストトレードを試してみる。これだけでも、何もしないよりはよっぽどマシだと言えるでしょう。

何よりも良いのは、**自分のトレードに自信が付いて来るまで、デモトレードを繰り返す事**です。

[▲目次へ戻る▲](#)

## ❖ 第6章：(4) ——そのシステムに無理はないか？——

利益が多いシステムが、必ずしも【良いシステム】であるとは限りません。

それは一体、何故だと思いますか？

あなたは毎日7時に起き、1時間の通勤電車に揺られて会社に向かうサラリーマンだとします。勿論、仕事は忙しく、いつも仕事が終わるのは夜10時過ぎ。そこからまたも1時間掛けて帰宅する生活。家に着くのは午後11時。もうすっかり深夜になってしまいます。

そんな生活の中で何とか時間を捻出し、儲かるシステムトレードが開発出来たとします。ところが、そんなシステムトレードには一つ問題がありました。

検証してみた結果、仕事をしている時間帯が、最もトレード回数が多いシステムという事が分かったのです。

ですが、折角、出来た儲かるシステムです。無理矢理でもトレードをしないと勿体無い話です。ですので、何とか仕事中に出来ないものかと、あの手この手を使ってトレードをしようとしてみます。

ですが、なかなか上手く行きません。

そもそも、ポジションを持つ所までは良いのですが、その後に急な仕事が入ってやらなければいけない…、という事が頻発してしまった時、そこから監視をする事が出来なくなるのです。さあ、既にこの時点でこれからどうなるかは分かりますよね？

そうです、一生懸命作り上げたシステムですが、これではとてもトレードをする事は出来ません。

確かに儲かるシステムです。しかし自分にとっては、儲からないシステムなのです。…さて、今のちょっとした小話にどんな意味があるか分かるでしょうか？

例えどんなに優れたシステムだったとしても、それが自分にとって無茶なシステムだったら、何の役にも立たないという事です。

自分にとっては、無理があるシステムだという事です。

検証をしているうちは気付かなかったかも知れません。しかし、こうして実際にデモトレードを行なうと、そういった問題点が見えて来る場合があります。

検証はあくまで検証でしかありません。

実際にトレードを行なった時に出て来る影響までは見えにくいものです。

故に、利益が多いシステムが必ずしも【良いシステム】であるとは限らない…、と言う事も出来る訳なのです。

やってみて出て来る問題をクリアして行き、自分に合った（使いやすい）システムを作り上げて行く為に、デモトレードを行ない、身を以って体感する事が大切なのです。

[▲目次へ戻る▲](#)

## ❖第6章：(5) ——トレード履歴を紙に記録しよう——

優れたトレーダーはある意味、**記憶力が良い生き物**であると言う事が出来ます。  
それは一体、何故だと思えますか？

そもそも人間の脳とは、都合の良い事は覚え易く、嫌だと思った事や、腹に立った事等は長い間、記憶に留まらないと言う性質を持っています。脳が自己の精神防衛をしているという事ですね。

その為、気乗りしない事や、都合の悪い事等が自分の身に降りかかった時、それを忘れる事で精神の均衡を保ちます。それはトレードにも当てはまります。儲かった時の事だけ覚えていて、損をした時の事はなかなか覚えていませんよね？

これはつまり、負けトレードの事を記憶から除外しようと脳が働くからですね。ところが、それだとトレードで儲ける為には少し問題があります。

それは…、【**どういう場面で負け易いか覚えていない**】という事です。  
つまり、負けトレードを忘れてしまうと、自分の負ける癖が分からないのです。

自分の負けパターンが分からないのはトレードの世界において致命的です。

そこで負けパターンがどんなものかを覚える為に、紙に書く事が記憶に残り易いのです。それでは何故、紙に書く事が、記憶に残り易いのでしょうか？これは、手の感覚を使う事で脳の記憶に残り易くなる方法だと言われている為です。

脳の記憶中枢には2つの場所があります。それは**短期記憶と長期記憶**です。

このうち、一時的に記憶する場所が短期記憶。それをいつまでも覚えておくようにする場所が長期記憶になります。どんなものでも、一旦は短期記憶に保管されます。

## 【ファーストステップFX】Part1第6章仮想トレードを行なう

ところがこの時、短期記憶には残るものの、長期記憶に残る前に忘れてしまう場合があります。それはつまり、嫌な事、嫌な思い出です。今回で言えば、負けトレードの記憶ですね。

しかし、投資で儲けられるトレーダーになる為には、この負けトレードを覚えておく必要があります。何故、人はいつまでも負け続けるのかと言うと、その負けトレードから何も学ばなかったからという訳です。

そこで、負けトレードを覚えさせる為に、紙に書き、長期記憶に記憶させる必要がある訳です。

短期記憶に繰り返し繰り返し覚え込ませて行けば、ある時、長期記憶にその記憶が移動して行きます。いざトレードをしようと思った時、ふとこういうシーンが出てくる時があります。

「この形はなんかヤバい」

「これでは利益が出にくいんじゃないか」

という記憶です。

この記憶を、一つの指針とする事が出来ます。そしてそれを基にして、負けないようなトレードで利益を上げて行く事が出来る訳です。

これが優れたトレーダーは記憶力が良い生き物である…、という理由になって来る訳です。

故に、紙に書く事で、そのトレードを記憶しやすくし、それが相場を客観的に見させ、トレードで安定した利益を上げて行く術になって来る訳ですね。

実際には、日付や、どの通貨ペアをどれだけ取引したか等の基本的な情報も勿論ですが、トレードで利益が出た時や、損失が出た時の感情も備考欄に書いておくと、とても効果的です。

現在、自分の使用しているシステムが〇〇回（〇〇日）トレードを行なうと、〇〇%のリターンが期待出来るシステムだ、と把握出来ているのであれば、もしそのシステムが苦手とする相場付きに入った時に、いつもより大きなドローダウンにも気が付く事が可能になります。

[▲目次へ戻る▲](#)


❖ 第6章：(6) ☆★☆☆第6章のまとめ☆☆☆

- ・デモ口座を作って、トレードがどんなものかを体感しておこう。
- ・デモ口座で練習する事で、ルールを守る癖が付けられる。
- ・練習で成績が上げられなければ、リアルで利益が上がる訳はない！
- ・トレードというものに自信を付けよう。

[▲目次へ戻る▲](#)







**Part1 一流トレーダーへの道を進む為に  
第6章 仮想トレードを行なう  
株式会社チャートマスター**